

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

24年の牛肉輸出量は前年比1.1%減、25年も引き続き減少予測

25年1月の牛総飼養頭数は前年比0.6%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年1月1日時点の牛総飼養頭数は8666万2000頭（前年同月比0.6%減）とわずかに減少し、6年連続で前年を下回った（注1）（表1）。内訳を見ると、繁殖雌牛（肉用牛）が同0.5%減、未經産牛（肉用牛）が同1.0%減といずれも減少した。また、同年2月1日時点のフィードロット飼養頭数は1171万6000頭（同0.7%減）とわずかに減少した。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

区分	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	88,841	87,157	86,662	▲0.6%
繁殖雌牛	38,337	37,360	37,213	▲0.4%
肉用牛	28,939	28,013	27,864	▲0.5%
乳用牛	9,398	9,347	9,349	0.0%
未經産牛 ※1	18,761	18,320	18,180	▲0.8%
肉用繁殖後継牛	4,930	4,718	4,672	▲1.0%
乳用繁殖後継牛	4,074	3,951	3,914	▲0.9%
その他	9,758	9,651	9,593	▲0.6%
去勢牛 ※1	16,057	15,959	15,802	▲1.0%
種雄牛 ※1	2,029	2,031	2,009	▲1.1%
子牛 ※2	13,658	13,488	13,458	▲0.2%

資料：USDA「Cattle」

注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、

※2は500ポンド未満。

注2：各年1月1日現在。

米国農務省動植物衛生検査局（USDA/APHIS）は25年2月1日、メキシコからの生体牛輸入の再開（注2）を発表した。輸入再開に伴い今後メキシコからの肥育牛供給の増加が見込まれることから、25年の牛肉生産量についてUSDAは、前月予測から35万1500トン上方修正した1204万9700トン（前年比1.6%減）と予測している。

（注1）海外情報「牛群再構築の遅れから牛飼養頭数の減少止まらず（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004027.html）をご参照ください。

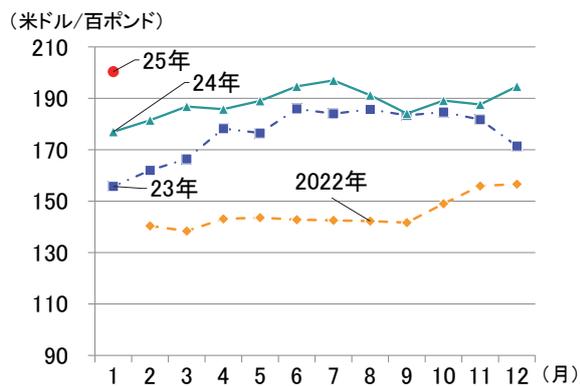
（注2）米国は2024年11月22日、メキシコ南部の牛からラセンウジバエが検出されたことを受け、同国からの生体牛輸入を一時的に停止していた。詳細は、海外情報「米国農務省、メキシコからの生体牛輸入の再開を発表（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004026.html）をご参照ください。

25年1月の肥育牛価格、前年同月比15.4%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年1月の肥育牛価格は100ポンド当たり204.23米ドル（1キログラム当たり678円：1米ドル＝150.67円（注3）、前年同月比15.4%高）とかなり大きく上昇した。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

図 肥育牛価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
 注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
 注2：2022年1月の値は、N/A値。

24年の牛肉輸出量は前年比1.1%減、 輸入量は同24.4%増

USDA/ERSによると、2024年12月の牛肉輸出量は11万7414トン（前年同月比3.2%増）とやや増加した（表2）。24年累計（1～12月）では136万2292トン（前年比1.1%減）とわずかに減少し、2年連続の減少となった。輸出先別に見ると、最大の

輸出先となった日本向けは29万992トン（同0.3%増）と前年並み、続く韓国向けは28万5836トン（同6.2%減）、中国向けは21万5282トン（同5.5%減）といずれも減少した。一方、メキシコ向けは堅調な需要により、15万5395トン（同7.8%増）とかなりの程度増加した。

24年の牛肉輸入量は、国内の牛肉生産量が減少する中、堅調な需要により210万2557トン（同24.4%増）と大幅に増加した（表3）。輸入先別では最大の豪州が同67.1%増と大幅に増加した他、ブラジルが60.6%増、ウルグアイが同72.3%増、アルゼンチンは同37.3%増となり、南米の主要輸出国からの輸入が大幅に増加した。

25年の牛肉輸出入量についてUSDAは、国内生産量の減少が見込まれることから、輸出量は126万7800トン（同6.9%減）、輸入量は216万3600トン（同2.9%増）と予測している。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2023年 12月	24年 12月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～12月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	21,240	22,313	5.1%	19.0%	290,992	0.3%
韓国	28,737	27,619	▲3.9%	23.5%	285,836	▲6.2%
中国	17,151	18,933	10.4%	16.1%	215,282	▲5.5%
メキシコ	14,890	14,375	▲3.5%	12.2%	155,395	7.8%
カナダ	9,834	9,441	▲4.0%	8.0%	114,460	▲6.4%
台湾	5,168	8,421	62.9%	7.2%	87,895	4.0%
香港	3,398	3,373	▲0.8%	2.9%	39,430	▲5.1%
その他	13,393	12,939	▲3.4%	11.0%	173,001	6.2%
合計	113,810	117,414	3.2%	100.0%	1,362,292	▲1.1%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注1：枝肉重量ベース。
 注2：計数は、四捨五入のため合計において一致しない場合がある。

表3 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

国名	2023年 12月	24年 12月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	24年	前年同期比
					(1～12月)	(増減率)
豪州	35,277	59,593	68.9%	32.9%	505,721	67.1%
カナダ	43,310	40,007	▲7.6%	22.1%	459,531	▲0.5%
ブラジル	9,402	15,273	62.4%	8.4%	313,400	60.6%
メキシコ	17,988	22,975	27.7%	12.7%	270,707	▲7.9%
ウルグアイ	8,171	11,490	40.6%	6.3%	140,181	72.3%
ニュージーランド	15,605	18,371	17.7%	10.2%	253,590	6.7%
アルゼンチン	2,122	4,129	94.6%	2.3%	44,904	37.3%
ニカラグア	5,804	4,990	▲14.0%	2.8%	70,150	2.7%
その他	1,323	4,111	210.8%	2.3%	44,373	174.8%
合計	139,002	180,940	30.2%	100.0%	2,102,557	24.4%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため合計において一致しない場合がある。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

豪州

24年第4四半期の成牛と畜頭数と牛肉生産量、前年同期比で大幅増

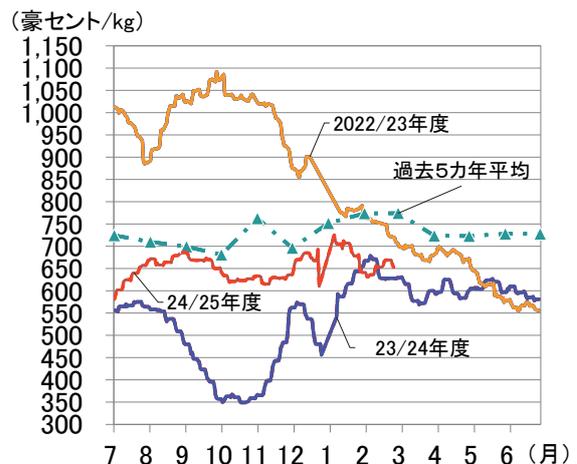
25年2月の若齢牛価格、今後は天候回復から上昇の見込み

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2025年2月26日時点で1キログラム当たり653豪セント（622円：1豪ドル＝95.23円^注）となっている（図1）。主産地を中心に高温乾燥が続いたことで、一部の生産者が牛の出荷を早めたことから牛の供給量が増え、1月下旬から2月初旬にかけて同650豪セント（619円）を下回った。その後は降雨による天候の回復も影響し、EYCI価格はやや上向きで推移している。

複数の農業系アナリストの見通しでは、天候の回復に伴い市場への牛供給量が減ること

から、今後のEYCI価格は上昇傾向で推移するとしている。ただし、EYCI価格を支えて

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

いる牧草肥育農家の大半はすでに牛群の再構築を完了していることから、上昇は小幅と予測している。

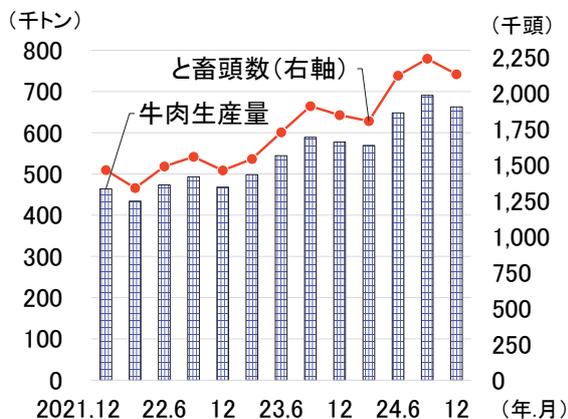
(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

成牛と畜頭数および牛肉生産量は大幅増、牛群の縮小傾向は継続

豪州統計局（ABS）が2025年2月に公表した統計によると、24年第4四半期（10～12月）の牛と畜頭数は213万頭（前年同期比15.4%増）、牛肉生産量は66万2827トン（同14.8%増）と、いずれもかなり大きく増加している（図2）。と畜頭数の増加により、雌牛のと畜頭数割合（FSR）は、繁殖雌牛の出荷による頭数削減が進んでいる指標である47%を7期連続で超えている状況にある（図3）。このため、今後、豪州の牛群縮小に注視する必要がある。

現地報道によると、と畜頭数、牛肉生産量が大きく増加する中で、豪州の食肉処理加工業者は処理能力の拡大に苦戦していると報じ

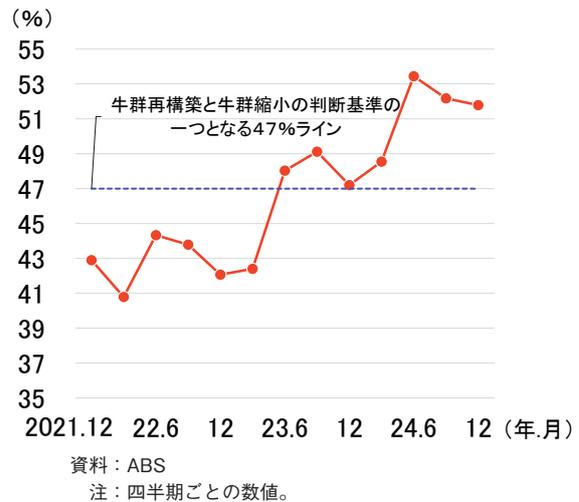
図2 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS
 注1：四半期ごとの数値。
 注2：生産量は枝肉重量ベース。
 注3：と畜頭数は子牛を除く。

られている。肉牛主産地のクイーンズランド州にある豪州最大のJBS社のディンモア工場では、1日当たり3300頭の肉牛処理を予定していたが、人員不足により同2900頭にとどまっているとされている。

図3 雌牛と畜割合（FSR）の推移



資料：ABS
 注：四半期ごとの数値。

2025年1月の牛肉輸出量、季節的な減少を示すも前年同月を上回る

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年1月の牛肉輸出量は、8万1049トン（前年同月比7.2%増）とかなりの程度増加した（表）。

輸出先別に見ると、米国向けは2万4685トン（同21.6%増）と大幅に増加しており、米国では、前年から豪州産牛肉への堅調な需要が続いている。MLAによると、25年も米国向けが輸出をけん引すると予測している。また、24年に交渉が妥結し、25年発効予定のアラブ首長国連邦（UAE）との自由貿易協定（CEPA：Australia-UAE Comprehensive Economic Partnership Agreement）により、冷凍牛肉に対する5%の輸入関税が撤廃されることから、さらなる輸出拡大が見込まれるとされている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 1月	25年 1月	前年同月比 (増減率)
米国	20,308	24,685	21.6%
韓国	11,682	10,596	▲9.3%
東南アジア	5,086	6,208	22.1%
インドネシア	341	582	70.9%
中国	14,100	14,908	5.7%
日本	16,331	15,806	▲3.2%
中東	2,212	2,327	5.2%
E U	777	1,060	36.4%
その他	5,088	5,459	7.3%
輸出量合計	75,585	81,049	7.2%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部 国際調査グループ)

アルゼンチン

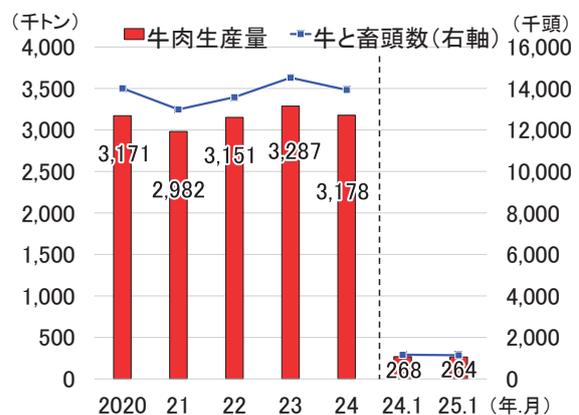
24年の牛肉輸出量は引き続き好調で3年連続の増加

24年牛肉生産量は前年比3.3%減と3年ぶりに減少

アルゼンチン経済省によると、2024年の牛肉生産量は317万8000トン（前年比3.3%減）と前年をやや下回り、3年ぶりの減少となった（図1）。これは、主要肉牛生産地域などが23年に70年ぶりといわれる厳しい干ばつに見舞われたことで、生産者からと畜向け出荷頭数が増加した結果、24年にはと畜対象となる個体数が減少したことに加え、天候の回復に伴う飼養環境の改善から、肉用牛生産者による牛の保留傾向が強まったためとみられる。また、同年のと畜頭数は、

1392万9000頭（同4.0%減）となった。ただし、このと畜頭数は直近10年間で見ると、23年、20年に次ぐ多さとなり、2年連続

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数



資料：アルゼンチン経済省

注：枝肉重量ベース。

で高い水準となった。と畜の内訳を見ると、全体に占める雌牛の比率は48.5%と23年に続く高水準になっており、牛群の縮小につながったとみられる。

25年1月の牛肉生産量は26万4000トン（前年同月比1.5%減）となった。

24年の牛肉輸出量、中国向けが全体の8割弱を占める

アルゼンチン国家統計院（INDEC）によると、2024年の牛肉輸出量は75万6330トン（前年比12.3%増）と前年をかなり大きく上回り、3年連続で増加し直近20年間で最大となった（表）。堅調な輸出需要に加え、24年8月から牛肉に対する輸出税が9%から6.75%へと25%引き下げられたことなどが増加につながったとみられる。一方、輸出単価は1トン当たり3911米ドル（58万9270円：1米ドル＝150.67円^{（注1）}、同

3.3%安）と前年をやや下回った。

輸出量全体の8割弱を占める中国向けは56万9108トン（同6.0%増）とかなりの程度増加したが、輸出単価は同2788米ドル（42万68円、同10.7%安）と前年をかなりの程度下回った。これは、中国経済の動向が不透明な状況下で同国の牛肉消費が停滞していること、さらに、豪州産牛肉などとの競合なども取引価格の下落につながったとみられる。このような中、アルゼンチンの牛肉業界は、中国向けの輸出依存度が高い状況に警戒を強めており、輸出市場の多様化を模索している。他の主要輸出先であるイスラエル、米国、チリ向けや、23年に輸出が再開されたメキシコ向けは、いずれも前年を大幅に上回った。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末のTTS相場。

表 牛肉輸出量および輸出額

国名	2023年			24年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	536,748	1,675,368	3,121	569,108	1,586,571	2,788	6.0%	▲5.3%	▲10.7%
イスラエル	37,211	226,447	6,085	43,760	269,461	6,158	17.6%	19.0%	1.2%
米国	23,888	129,071	5,403	34,753	193,931	5,580	45.5%	50.3%	3.3%
ドイツ	24,648	250,636	10,169	24,560	257,732	10,494	▲0.4%	2.8%	3.2%
チリ	19,022	137,939	7,252	24,081	163,072	6,772	26.6%	18.2%	▲6.6%
オランダ	16,095	153,299	9,525	16,545	168,456	10,182	2.8%	9.9%	6.9%
メキシコ	716	4,690	6,550	9,350	47,879	5,121	1205.9% （約13倍）	921.0% （約10倍）	▲21.8%
イタリア	3,763	40,671	10,808	7,352	69,179	9,410	95.4%	70.1%	▲12.9%
ブラジル	5,809	56,297	9,691	6,682	68,054	10,185	15.0%	20.9%	5.1%
その他	5,509	48,581	8,818	20,139	133,472	6,628	265.6%	174.7%	▲24.8%
合計	673,409	2,722,997	4,044	756,330	2,957,806	3,911	12.3%	8.6%	▲3.3%

資料：INDEC

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

24年10月の肥育牛出荷価格、前年同月比約2.2倍に上昇

アルゼンチンの肉用牛相対取引の指標となるアグロガナデロ家畜市場の2024年10月の肥育牛出荷価格は、1キログラム当たり1900.88ペソ（266円：1ペソ＝0.14円^{（注2）}）と、前年同月比約2.2倍となった（図2）。これは、不安定な経済状況を反映した急激なインフレに加え、23年12月12日に実施された50%を超える公式為替レートの切り下げなどの影響とみられる。

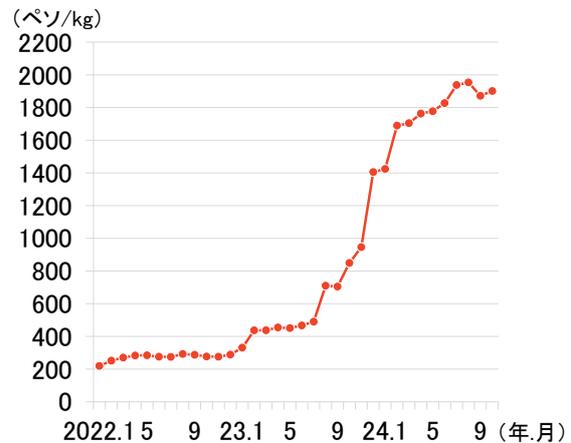
アルゼンチンでは23年12月10日に新政権が発足し、インフレや債務など同国経済が抱える諸問題の原因である慢性的な財政赤字問題の解決に着手した。

この結果、24年12月の消費者物価指数（CPI）は117.8%（年率）となり、23年の上昇率（211.4%）からは大幅に改善したものの、国内消費者の購買力は依然低迷している。ロサリオ商品取引所によると、24年の

年間1人当たり牛肉消費量は約45キログラムで、過去110年で最も少ないと予想されている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン経済省

注：アグロメルカド家畜市場における肥育牛（去勢）生体1キログラム当たりの価格。

（調査情報部 井田 俊二）

豚 肉

米 国

24年の豚肉輸出量は前年比4.3%増、25年は同2.5%増の予測

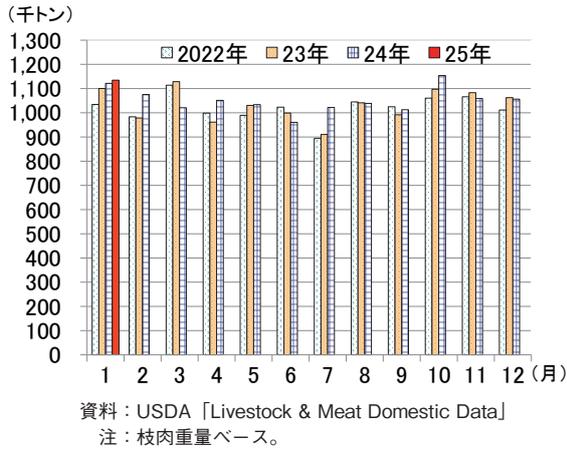
25年1月の豚肉生産量、前年同月比1.2%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年1月の豚と畜頭数は1146万7300頭（前年同月比0.9%増）とわずかに増加した。また、飼料安から平均枝肉重量も増加したことから、同月の豚肉生

産量は113万4800トン（同1.2%増）とわずかに増加した（図1）。

25年の生産量見込みについてUSDAは、国内外の堅調な需要が続く中、24年9～11月にかけての産子数の増加や、平均枝肉重量の増加も見込まれることから、前年をわずかに上回る1294万1000トン（前年比2.7%増）と予測している。

図1 豚肉生産量の推移



25年1月の豚肉卸売価格は前年同月比4.7%高、消費量は増加傾向

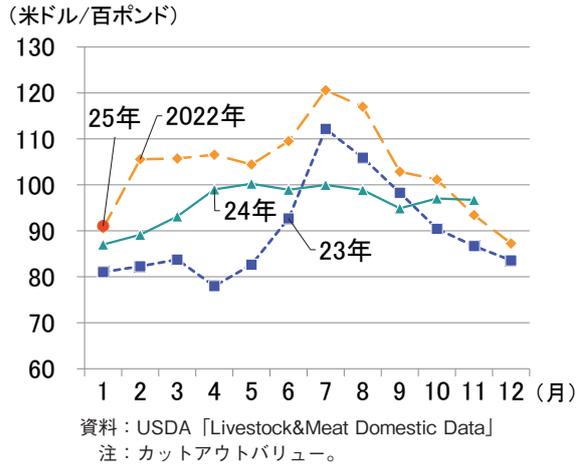
USDAによると、2025年1月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{注1}）は、100ポンド当たり91.07米ドル（1キログラム当たり303円：1米ドル＝150.67円^{注2}、前年同月比4.7%高）と前年同月をやや上回った（図2）。近年、米国の豚肉消費量は増加傾向にあり、24年は999万トン（前年比1.6%増）と前年を上回るなど、堅調な需要が価格を下支えしている。

同月の肥育豚価格についても、同59.34米

ドル（同197円、同19.1%高）と前年同月を大幅に上回った。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

図2 豚肉卸売価格の推移



24年の豚肉輸出量、前年比4.3%増

USDA/ERSによると、2024年12月の豚肉輸出量は29万2900トン（前年同月比0.3%増）と前年並みであったが、24年累計では322万7400トン（前年比4.3%増）とやや増加した（表）。同年の輸出量を輸出先別

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年12月	24年12月	24年		前年同期比（増減率）
			前年同月比（増減率）	シェア	
メキシコ	113.0	112.8	▲0.2%	38.5%	1,206.9 3.7%
日本	38.4	34.0	▲11.4%	11.6%	478.1 ▲2.2%
中国	13.4	21.3	59.2%	7.3%	209.3 ▲8.8%
カナダ	21.0	20.4	▲3.0%	7.0%	240.5 ▲5.0%
韓国	34.1	26.2	▲23.1%	9.0%	300.9 12.0%
コロンビア	12.9	14.3	10.8%	4.9%	167.0 32.5%
ドミニカ共和国	11.6	9.1	▲21.3%	3.1%	124.4 ▲3.1%
豪州	12.6	12.4	▲1.4%	4.2%	122.5 30.6%
その他	35.0	42.4	21.2%	14.5%	377.7 10.1%
合計	292.0	292.9	0.3%	100.0%	3,227.4 4.3%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
注1：枝肉重量ベース。
注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは、堅調な需要から120万6900トン（前年同月比3.7%増）やや増加した。また、韓国向けは30万90トン（同12.0%増）とかなり大きく増加した。一方、日本向けは円安や現地相場高の影響により、47万8100トン（同2.2%減）とわずかに減少した。そのほか、輸出量は少ないながらも豪州向けが12万2500トン（同30.6%増）と大幅に増加した。

豪州は豚肉輸入の約半分を米国産豚肉が占めており、同国向け輸出増の要因としてUSDAは、近年、豪州に在住する移民の増加に伴う豚肉消費の増加を挙げている。

25年の豚肉輸出量についてUSDAは、生産量の増加などから330万9000トン（前年比2.5%増）と見込んでいる。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

E U

豚肉生産量は回復基調、豚枝肉卸売価格は下落

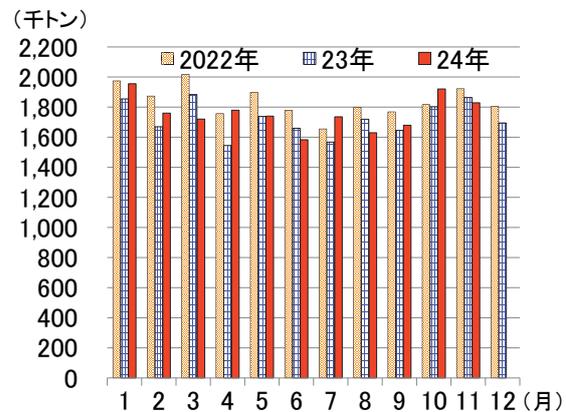
24年のEU豚肉生産量は前年比2.0%増もオランダの減産は続く

欧州委員会によると、2024年11月の豚肉生産量（EU27カ国）は、182万8550トン（前年同月比1.9%減）とわずかに減少したものの、24年1～11月の豚肉生産量を見ると、前年同月を上回る月が多く1932万9380トン（前年同期比2.0%増）とわずかに増加した（図1）。

同期間の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、オランダを除く主要生産国で豚肉生産量が増加した（表1）。デンマークの豚と畜頭数

は前年同期比1.2%減とわずかに減少したものの、1頭当たりの枝肉重量が増加したこと

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

（単位：千トン）

国名	2023年 11月	24年 11月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～11月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
スペイン	455	438	▲3.7%	4,513	0.8%
ドイツ	383	385	0.4%	3,937	1.9%
フランス	175	165	▲5.7%	1,919	1.1%
ポーランド	161	168	4.5%	1,736	8.1%
オランダ	132	117	▲11.4%	1,293	▲4.2%
デンマーク	117	121	3.3%	1,230	3.4%
イタリア	104	100	▲4.5%	1,138	3.0%
その他	337	336	▲0.3%	3,563	3.1%
合計	1,864	1,829	▲1.9%	19,329	2.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

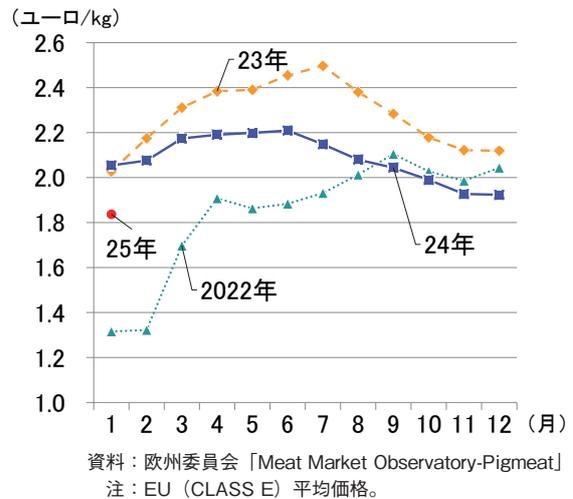
により、豚肉生産量は同3.4%増となった。一方でオランダは、環境対策として政府が実施する畜産農家の廃業支援などにより、豚飼養頭数が減少傾向で推移^(注1)しており、主要生産国の中で唯一、豚肉生産量が前年同期を下回った(同4.2%減)。

(注1) 海外情報「オランダ、政府による畜産農家への廃業支援などで豚飼養頭数が減少(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004044.html)をご参照ください。

25年1月の豚枝肉卸売価格、ドイツでの口蹄疫発生を受けて下落

欧州委員会によると、2025年1月の豚枝肉卸売価格(EU27カ国)は、前年同月比10.6%安の1キログラム当たり1.84ユーロ(289円:1ユーロ=157.10円^(注2))となった(図2)。25年1月10日のドイツでの口蹄疫発生により、英国などがドイツ産豚肉の輸入を停止したことで、EU域内の豚肉需給緩和の懸念から、豚枝肉卸売価格は口蹄疫発生前(24年12月30日の週)の同1.91ユーロ(300円)から25年1月20日の週の同1.79ユーロ(281円)に下落している^(注3)。以降はほぼ横ばいが続いており、直近2月10日の週は同1.81ユーロ(284円)と前年

図2 豚枝肉卸売価格の推移



同期比13.3%安となった。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

(注3) 海外情報「ドイツでの口蹄疫発生から1カ月が経過、豚肉価格が軟化(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004042.html)をご参照ください。

24年の豚肉輸出量は前年比4.4%減、中国向けがかなり大きく減少

欧州委員会によると、2024年のEU域外への豚肉輸出量(EU27カ国)は、200万5683トン(前年比4.4%減)とやや減少した(表2)。日本(同1.0%増)やフィリピン(同14.5%増)向けなどは増加したものの、中国の豚肉輸入需要が低迷する中、特に上半期(1~6月)

表2 輸出先別豚肉輸出量 (EU域外向け)

(単位：トン)

国名	2023年 12月	24年 12月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1~12月)	
					輸出量	前年同期比 (増減率)
中国	38,018	35,053	▲7.8%	23.3%	486,550	▲15.4%
英国	25,349	25,186	▲0.6%	16.7%	343,170	▲0.4%
日本	22,272	20,653	▲7.3%	13.7%	291,657	1.0%
韓国	16,888	14,502	▲14.1%	9.6%	194,255	0.9%
フィリピン	8,185	8,066	▲1.5%	5.4%	127,379	14.5%
豪州	4,156	6,053	45.6%	4.0%	70,364	5.6%
その他	40,587	40,971	0.9%	27.2%	492,308	▲5.2%
合計	155,455	150,484	▲3.2%	100.0%	2,005,683	▲4.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

はEUの豚肉価格が高値で推移し価格競争力が低下したため、中国向けの輸出量は前年同期比28.1%減と大幅に減少したことが影響した。

一方、下半期（7～12月）はEUの豚肉価格が軟化したことで、中国向けの豚肉輸出

量は同1.0%増とわずかに増加したものの、年間では前年比15.4%減とかなり大きく減少した。

（調査情報部 藤岡 洋太）

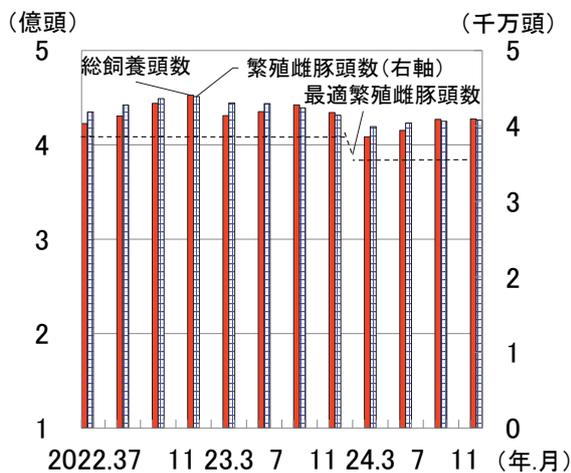
中国

24年の豚肉生産量は前年に続き高水準、豚肉輸入量は大幅減

24年12月末の繁殖雌豚頭数、前年同月比1.6%減

中国農業農村部によると、2024年12月末時点の繁殖雌豚頭数は4078万頭（前年同月比1.6%減）となった（図1）。同頭数は、同部が最適な水準としている3900万頭を4.6%上回っている。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

注1：四半期ごとの公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

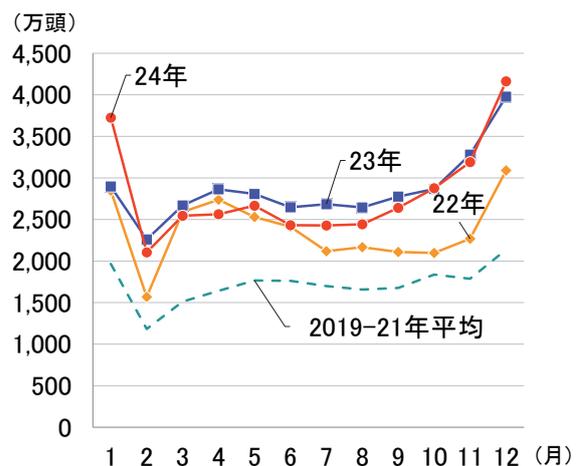
24年12月の豚と畜頭数、前年同月比4.6%増

2024年12月の豚と畜頭数は、4162万頭（前年同月比4.6%増）と前年同月からやや

増加し、前月比では30.5%増と大幅に増加した（図2）。この要因について現地報道によると、例年2月上旬ごろの旧正月（春節）が、25年は1月末ごろとなったことを受け、出荷のピークが12月に前倒しとなったためとされている。

24年の豚と畜頭数は1月、10月、12月を除き、前年を下回ったものの、12月の増加の結果、24年の豚肉生産量は5706万トン（前年比1.5%減）と前年比でわずかな減少にとどまり、高水準を維持した。

図2 豚と畜頭数の推移

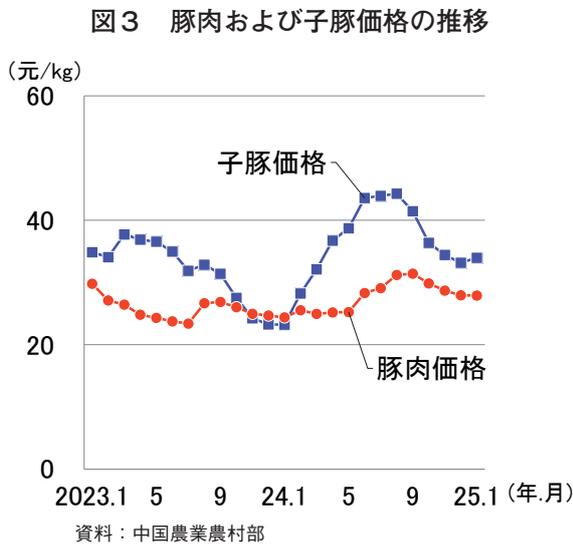


資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

25年1月の豚肉価格、前年同月比14.4%高

2025年1月の豚肉価格は、前月比0.2%安の1キログラム当たり27.9元（580円：1元＝20.80円^{（注）}、前年同月比14.4%高）となった（図3）。一方、豚肉生産にも影響する同月の子豚価格は、前月比2.4%高の同34.0元（707円、同46.3%高）となった。



今後の豚肉価格と子豚価格について中国農業農村部は、25年2月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年1月）」の中で、24年5月以降、繁殖雌豚頭数が増加傾向で推移したため、旧正月後の豚肉需要の閑散期も豚の出荷頭数は増えることから、短期的に下落する可能性が高いとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

24年の豚肉輸入量、前年比31.8%減

2024年の豚肉輸入量は105万724トン（前年比31.8%減）となり、最大の輸入先であるスペインをはじめ、すべての主要輸入先で前年同期を大幅に下回った（表）。この要因について現地専門家は、（1）中国の豚肉生産能力の回復から国産豚肉の供給量が十分であること（2）豚肉価格が低水準であった23年に国産の冷凍豚肉の在庫が増えた一方で、健康志向の進展などから豚肉の消費が低迷し、24年を通して国産の冷凍豚肉の在庫が高水準で推移したこと一を挙げている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

国名	2020年	21年	22年	23年	24年	前年同期比 （増減率）
スペイン	93.3	109.7	46.9	37.8	29.0	▲23.2%
ブラジル	48.0	54.6	41.7	40.2	23.7	▲41.1%
オランダ	41.0	23.6	11.4	13.2	7.6	▲42.3%
カナダ	26.5	27.7	12.3	12.0	7.5	▲37.5%
チリ	16.5	13.8	7.2	8.4	6.5	▲23.0%
米国	69.6	39.8	12.6	12.3	7.0	▲42.7%
その他	135.3	88.1	42.3	30.1	23.7	▲21.3%
合計	430.2	357.3	174.4	154.1	105.1	▲31.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部 平山 宗幸）

鶏肉

米 国

24年の鶏肉輸出量、米ドル高の影響などから前年比7.4%減

24年の鶏肉生産量、前年比1.3%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年の鶏肉生産量は生体重量および処理羽数の増加により、2131万5000トン（前年比1.3%増）とわずかに増加した（表1）。また、25年1月の鶏肉生産量は187万7000トン（前年同月比2.1%増）とわずかに増加した（図1）。同年の鶏肉生産量についてUSDAは、24年11月以降、採卵鶏を中心に発生している高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響を踏まえ、第1四半期（1～3月）の生産量見込みを前月予測

から1万1000トン引き下げたが、年間では前月予測を据え置いて2160万2000トン（前年比1.4%増）と増産を予測している。

図1 鶏肉生産量の推移（月別）

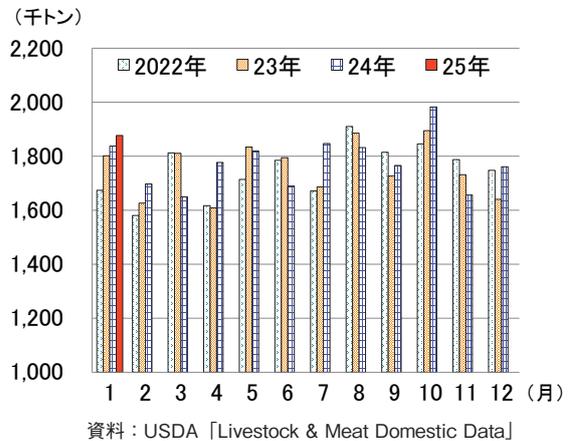


表1 鶏肉生産量の推移

区分	2023年	24年	前年同月比 (増減率)	25年	前年比 (増減率)
	(1～12月)	(1～12月)		1月	
生産量（千トン）	21,041	21,315	1.3%	1,877	2.1%
処理羽数（百万羽）	9,381	9,460	0.8%	824	1.0%
生体重量（キログラム/羽）	2.97	2.98	0.4%	3.02	1.1%

資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

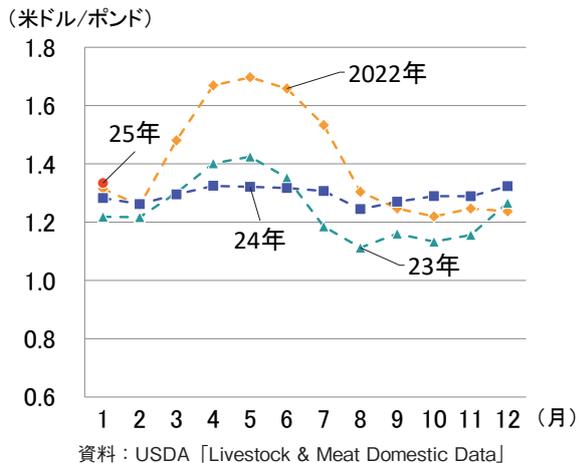
25年1月の卸売価格、前年同月比4.0%高

USDA/ERSによると、2025年1月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.33米ドル（1キログラム当たり442円：1米ドル＝150.67円（注）、前年同月比4.0%高）とやや上昇した（図2）。また、同月末の冷凍鶏肉

在庫量は、堅調な需要により34万6619トン（同3.9%減）とやや減少した。25年の平均鶏肉卸売価格についてUSDAは、同1.32米ドル（同438円、前年比1.9%高）とわずかな増加を見込んでいる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

図2 鶏肉の卸売価格の推移



24年の鶏肉輸出量、前年同月比7.4%減

USDA/ERSによると、2024年12月の鶏肉輸出量は24万2376トン（前年同月比16.4%減）と大幅に減少し、24年累計では、米ドル高による価格競争力の低下などから304万9896トン（前年比7.4%減）とかなりの程度下回った（表2）。25年の鶏肉輸出量についてUSDAは、前年比1.8%減の299万6000トンと見込んでいる。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2023年12月	24年12月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年(1~12月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	61,369	58,740	▲4.3%	24.2%	730,135	1.4%
台湾	29,621	21,173	▲28.5%	8.7%	209,160	▲23.0%
キューバ	27,023	20,619	▲23.7%	8.5%	252,478	▲3.1%
グアテマラ	12,956	13,721	5.9%	5.7%	138,727	▲3.6%
カナダ	10,471	11,580	10.6%	4.8%	156,024	8.0%
ベトナム	4,706	10,026	113.0% (2.1倍)	4.1%	116,804	18.2%
フィリピン	16,260	8,047	▲50.5%	3.3%	168,754	▲2.1%
アンゴラ	9,420	6,779	▲28.0%	2.8%	118,710	14.3%
ドミニカ共和国	5,661	6,505	14.9%	2.7%	66,849	18.0%
その他	112,570	85,186	▲24.3%	35.1%	1,092,256	▲17.3%
合計	290,058	242,376	▲16.4%	100.0%	3,049,896	▲7.4%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 小林 大祐)

ブラジル

24年鶏肉輸出量は堅調な需要を背景に4年連続での増加

24年の鶏肉生産量は、堅調な需要を背景に引き続き増加傾向で推移

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、

2024年1～9月の鶏肉生産量は1027万8000トン（前年同期比1.5%増）と前年同期をわずかに上回った（図1）。これは、多くの国で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）

が発生したことにより鶏肉供給量に制約が生じたことや堅調な鶏肉需要を背景に鶏肉価格が高値で推移したことで、生産者の増産意欲につながったためとみられる。また、同期間の処理羽数は、48億3003万羽（同1.6%増）となった。

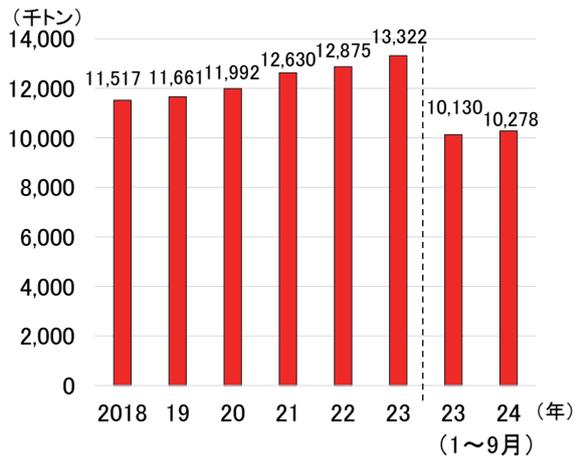
近年の鶏肉生産量を見ると、23年まで5年連続で増加している。サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、同国の鶏肉生産量は、24年に続き25年も増加傾向で推移すると予測されている。

24年鶏肉輸出量は、中国向けが大幅減も前年比3.2%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年の鶏肉輸出量は488万3458トン（前年比3.2%増）と前年をやや上回り、4年連続の増加となった（表、図2）。

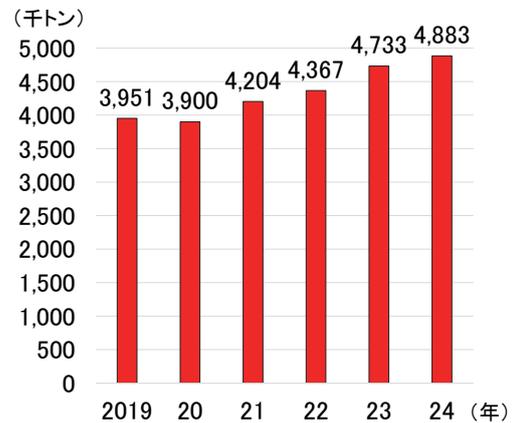
輸出先別に見ると、最大の中国向けは56万1097トン（同17.8%減）と前年を大幅に下回った。これは、中国国内での鶏肉増産

図1 鶏肉生産量の推移



資料：IBGE
注：2024年は速報値。

図2 鶏肉輸出量の推移



資料：IBGE
注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。
注2：製品重量ベース。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

国名	2023年			24年			前年比（増減率）		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	682,282	1,608,611	2,358	561,097	1,288,025	2,296	▲17.8%	▲19.9%	▲2.6%
アラブ首長国連邦	438,663	882,296	2,011	453,763	941,902	2,076	3.4%	6.8%	3.2%
日本	427,956	947,067	2,213	437,996	847,120	1,934	2.3%	▲10.6%	▲12.6%
サウジアラビア	376,576	843,088	2,239	370,643	818,455	2,208	▲1.6%	▲2.9%	▲1.4%
南アフリカ	339,858	196,295	578	324,079	186,357	575	▲4.6%	▲5.1%	▲0.4%
フィリピン	217,470	198,374	912	234,764	213,426	909	8.0%	7.6%	▲0.3%
メキシコ	171,567	367,316	2,141	211,649	533,549	2,521	23.4%	45.3%	17.7%
イラク	150,228	298,681	1,988	177,962	396,893	2,230	18.5%	32.9%	12.2%
その他	1,927,939	3,449,131	1,789	2,111,505	3,700,773	1,753	9.5%	7.3%	▲2.0%
合計	4,732,539	8,790,858	1,858	4,883,458	8,926,501	1,828	3.2%	1.5%	▲1.6%

資料：SECEX
注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。
注2：製品重量ベース。

に向けた動きや消費者志向の変化のほか、24年7月17日、南部リオグランデドスル州の商業養鶏農家でニューカッスル病の発生が確認されたことで、8月中旬までの約1カ月間、ブラジルのすべての地域からの同国向け鶏肉輸出が停止されたことなどが影響したとみられる。一方、これに続くアラブ首長国連邦向けは45万3763トン（同3.4%増）、日本向けは43万7966トン（同2.3%増）といずれも前年を上回った。このほか、メキシコ向けは21万1649トン（同23.4%増）と前年を大幅に上回った。これは、メキシコ政府が国内のインフレおよび貧困対策として、ブラジルからの鶏肉および豚肉の輸入を無税とする措置を講じたためである。なお、この措置は25年まで延長されることとなった。

鶏肉卸売価格は24年10月以降、上昇傾向で推移

CEPEAによると、直近（2025年2月17日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格は、1キログラム当たり8.40リアル（216円：1リアル＝25.76円^注、前年同期比11.7%高）となった（図3）。24年の鶏肉卸売価格は、

年初から同7.0～7.5リアル（180～193円）の範囲内で推移していたが、10月末に上昇し、11月中旬以降は8.0リアル（206円）を超える水準で推移した。これは、国内での牛肉や豚肉価格の上昇により鶏肉の相対的な価格優位性が強まり、消費者の需要が比較的安価な鶏肉へ移行したことなどが影響したとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図3 サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の毎日の推移



資料：CEPEA
注：名目価格。

（調査情報部 井田 俊二）

中国

24年の鶏肉生産量は過去最高の見込み

24年の家きん総出荷羽数は前年比3.1%増の170億羽超の見込み

中国国家统计局によると、2024年の家きん総出荷羽数は173億4000万羽（前年比3.1%増）と統計上、初めて170億羽を超え、家きん肉生産量は2660万トン（同3.8%増）と、いずれも前年をやや上回った。また、

同年12月末の家きん飼養羽数は64億8000万羽（同4.5%減）となった。この要因について現地報道によると、健康志向などを背景に急増する鶏肉などの需要を満たすため、産卵サイクルを早めた家きんの出荷が行われたことで、飼養羽数の減少につながったとされている。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の

直近見通しによると、25年の中国の鶏肉生産量^(注1)は1550万トン(同1.0%増)とされ、過去最高を記録した24年を上回ることが見込まれている(表1)。この要因として、飼料コストの減少や中国国内の優良遺伝子を用いた生産能力の強化が挙げられている。

(注1) 同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」2 肉用鶏産業の概要(1) 家きん産業における肉用鶏産業の位置付け(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001123.html#title3)をご参照ください。

表1 中国の鶏肉需給

(単位：万トン)

区分	2022年	23年	24年	25年(予測)
生産量	1,430	1,480	1,535	1,550
輸入量	63	76	48	38
輸出量	53	55	77	78
国内消費量	1,440	1,500	1,506	1,510

資料：USDA/FAS

注：もみじ(鶏足)は含まない。

24年の鶏肉市場価格、前年同期比0.7%安

中国農業農村部によると、2025年2月第2週の鶏肉市場価格は1キログラム当たり23.54元(490円：1元=20.80円^(注2)、前年同期比3.0%安)と前年同期をやや下回った(図)。

鶏肉供給量の増加などから、同価格は24年に入りおおむね前年を下回って推移している。

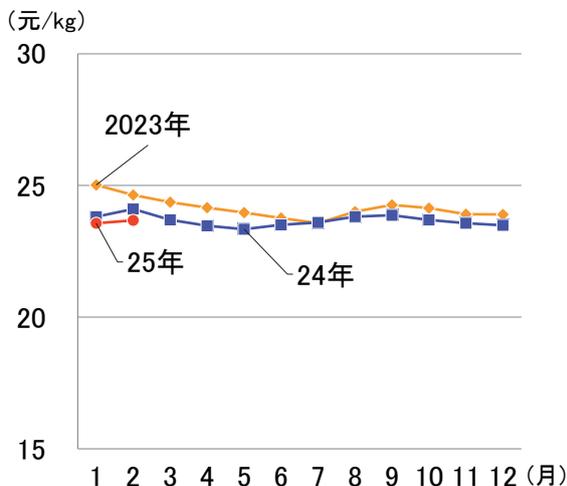
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

24年冷凍鶏肉輸入量、前年比27.8%減

2024年の冷凍鶏肉輸入量は92万6571トン(前年比27.8%減)と、前年を大幅に下回った(表2)。輸入量の減少について現地報道は、中国国内で十分な鶏肉供給が行われたことを挙げている。

25年の鶏肉輸入見通しについてUSDA/FASは、中国国内の生産量増加に加え、主要輸出国の家畜感染症や為替相場の影響などから、前年を下回って推移するとしている。

図 鶏肉市場価格の推移



資料：中国農業農村部

表2 輸入先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2020年	21年	22年	23年	24年	前年同期比 (増減率)
ブラジル	68.5	65.1	55.3	67.9	55.8	▲17.8%
ロシア	14.4	11.8	12.7	12.7	12.8	1.0%
タイ	11.7	10.4	8.5	11.6	11.3	▲3.2%
米国	40.9	44.0	34.3	24.3	6.1	▲74.9%
その他	15.8	14.3	18.4	11.7	6.6	▲43.5%
合計	151.4	145.6	129.2	128.3	92.7	▲27.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

24年の鶏肉調製品輸出量、前年比18.3%増

2024年の鶏肉調製品の輸出量は35万4365トン（前年比18.3%増）と、前年を大幅に上回った（表3）。主要輸出先を見ると、日本向けは引き続き首位を維持しており、

香港や英国、オランダ向けなども増加している。25年の鶏肉調製品の輸出見通しについてUSDA/FASは、鶏肉生産量の増加により国内需給が緩和することで輸出可能な量が増加することから、前年を上回って推移していると推測している。

表3 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2020年	21年	22年	23年	24年	前年同期比 (増減率)
日本	16.1	18.0	19.3	17.2	18.5	7.6%
香港	3.0	3.7	3.8	3.8	4.2	12.4%
英国	0.6	0.8	1.8	2.5	3.8	47.6%
オランダ	1.0	1.4	1.8	2.0	3.1	52.6%
その他	2.0	3.0	3.7	4.4	5.8	32.5%
合計	22.7	27.0	30.5	30.0	35.4	18.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは160232。

(調査情報部 田中 美宇)

牛乳・乳製品

EU

高水準の生乳取引価格を背景に生乳出荷量は維持も、輸出量は減少

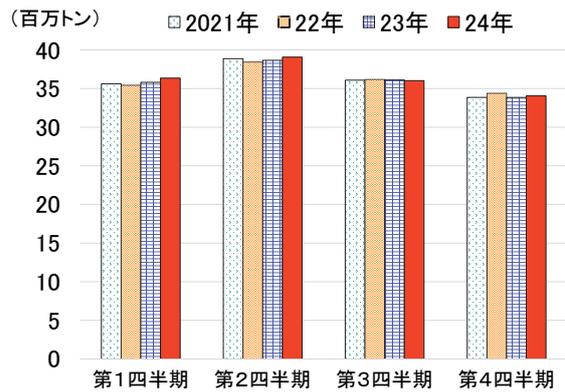
24年12月の生乳出荷量、前年同月比0.7%減

欧州委員会によると、2024年12月の生乳出荷量（EU27カ国）は1136万9000トン（前年同月比0.7%減）と前年同月をわずかに下回った（表1、図1）。主要生産国別に見ると、ポーランド（同3.8%増）、スペイン（同0.8%増）、デンマーク（同1.3%増）およびアイルランド（同30.1%増）が前年同月を上回る中で、ドイツ（同4.3%減）やフランス（同0.9%減）、オランダ（同0.6%減）などは、いずれも前年同月を下回った。また、24年の生乳出荷量を見ると、オランダが前年比1.7%減となり、主要生産国の中で最も減少幅が大きくなった。これは、環境規制の強化や政府の廃業支援による飼養頭数の減少

に加え、家畜疾病などの影響もあるとみられている。

24年上半期（1～6月）の生乳出荷量は、（1）比較的高い水準で安定した生乳取引価格（2）前年に比べて良好な気象条件—により前年同期を1.3%上回った。第3四半期

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年 12月	24年 12月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～12月)	
				前年同期比 (増減率)	
ドイツ	2,650	2,535	▲4.3%	32,125	▲0.9%
フランス	1,974	1,956	▲0.9%	23,746	1.3%
オランダ	1,141	1,134	▲0.6%	13,660	▲1.7%
ポーランド	1,075	1,116	3.8%	13,526	3.9%
イタリア	1,084	1,019	▲6.1%	12,958	3.1%
スペイン	608	613	0.8%	7,442	1.5%
デンマーク	461	467	1.3%	5,692	0.1%
ベルギー	387	371	▲4.1%	4,627	▲0.7%
アイルランド	211	275	30.1%	8,678	▲0.4%
その他	1,862	1,883	1.1%	23,029	1.6%
合計	11,453	11,369	▲0.7%	145,482	0.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

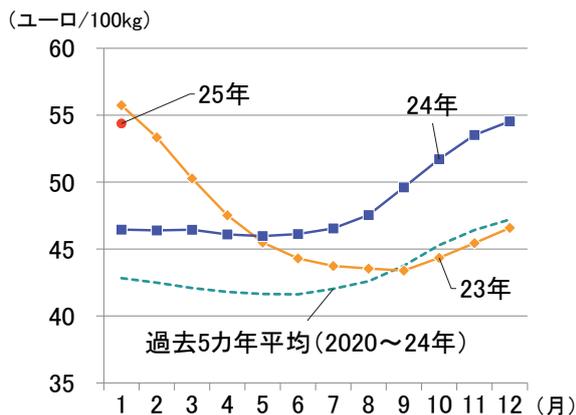
(7～9月)は(1)記録的な高温(2)環境規制の強化により生乳出荷量が前年同期並み(同0.2%減)となったが、第4四半期(10～12月)は(1)アイルランドの放牧環境の改善(2)生乳取引価格の上昇により同0.6%増となった。これらの結果、24年の生乳出荷量は、前年比0.7%増と前年をわずかに上回った。

25年1月の生乳取引価格、9カ月連続で前年同月を上回る

欧州委員会によると、2025年1月の生乳取引価格(EU27カ国の平均)は、100キログラム当たり54.38ユーロ(1キログラム当たり85.43円:1ユーロ=157.10円(注)、前年同月比17.1%高)と9カ月連続で前年同月を上回った(図2)。

(注)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



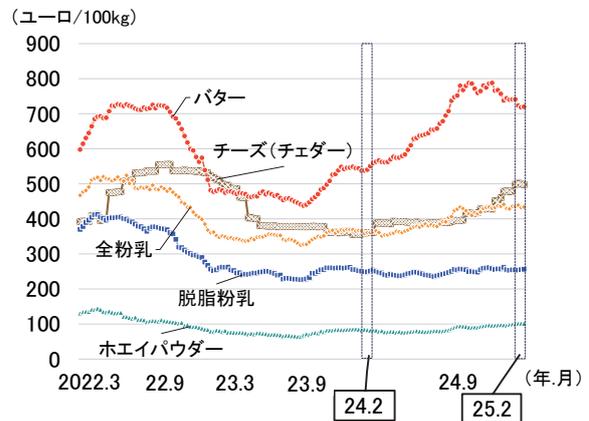
資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注1：直近月は推定値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

25年2月のチーズ価格、前年同期比37.9%高と上昇が続く

欧州委員会によると、2025年2月23日の週の乳製品価格(EU27カ国の平均)は、

脱脂粉乳は100キログラム当たり256ユーロ(1キログラム当たり402円、前年同期比0.9%高)、全粉乳は同434ユーロ(同682円、同19.4%高)と前年同期を上回った(図3)。また、バターは同720ユーロ(同1131円、同28.7%高)と前年同期を大幅に上回ったが、前月同期比では2.8%安とわずかに下落傾向にある。チーズは同498ユーロ(同782円、前年同期比37.9%高)、前月同期比でも3.8%高と上昇が続いている。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

24年の主要乳製品輸出量、チーズを除き前年を下回る

欧州委員会によると、2024年のEU域外向けの乳製品輸出量は、チーズが138万6900トン(前年比0.1%増)と前年並みであった一方、バターが24万8200トン(同2.3%減)、脱脂粉乳が71万6900トン(同7.6%減)、全粉乳が20万7800トン(同20.1%減)といずれも前年を下回った(表2)。

バターの輸出量減少は(1)歴史的な価格高騰(2)生乳が主にチーズに仕向けられたことによる生産減が影響したが、米国向け

は、トランプ新政権誕生前の24年下期に前倒しとみられる輸出が増えたことで、6万3900トン（前年同期比41.2%増）と前年を大幅に上回った。チーズは日本向けが減少（同20.5%減）したが、米国向け輸出の増加（同12.1%増）により相殺された。現地報道によると、日本向け輸出減少の一因として、

日豪FTAの関税率削減による豪州産チーズの輸入拡大の影響が挙げられている。

脱脂粉乳はアフリカや東南アジア向け輸出が総じて増加したが、中東や特に中国向けの減少が大きく、EU全体として輸出減となった。

表2 主な乳製品の輸出量の推移

（単位：千トン）

バター				脱脂粉乳				チーズ				全粉乳			
輸出先	2023年 (1～12月)	24年 (1～12月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～12月)	24年 (1～12月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～12月)	24年 (1～12月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～12月)	24年 (1～12月)	前年同期比 (増減率)
米国	45.2	63.9	41.2%	アルジェリア	143.5	165.2	15.1%	英国	432.8	430.3	▲0.6%	オマーン	44.4	42.6	▲4.0%
英国	47.3	51.6	9.1%	エジプト	51.8	53.5	3.2%	米国	126.5	141.8	12.1%	英国	17.2	16.6	▲3.5%
中国	14.6	17.1	16.7%	フィリピン	27.1	38.4	41.8%	日本	101.9	81.0	▲20.5%	クウェート	10.5	14.9	42.8%
韓国	12.0	12.2	1.8%	サウジアラビア	40.7	32.8	▲19.5%	スイス	71.2	74.9	5.2%	中国	14.2	14.7	3.5%
サウジアラビア	16.3	10.6	▲34.8%	イエメン	34.5	31.8	▲7.9%	韓国	53.9	51.9	▲3.8%	ドミニカ共和国	9.0	7.8	▲13.1%
アラブ首長国連邦	6.1	6.4	6.1%	ナイジェリア	19.9	30.6	53.8%	サウジアラビア	40.9	42.3	3.3%	サウジアラビア	6.7	6.7	0.7%
インドネシア	4.1	5.7	39.7%	中国	68.5	29.6	▲56.8%	ウクライナ	34.4	37.7	9.8%	セネガル	6.4	6.1	▲4.5%
モロッコ	7.4	5.2	▲29.5%	インドネシア	27.0	29.1	7.8%	中国	33.7	30.4	▲9.8%	スイス	2.7	5.7	109.1%
その他	101.1	75.5	▲25.4%	その他	362.5	306.0	▲15.6%	その他	490.2	496.6	1.3%	その他	149.1	92.5	▲37.9%
合計	254.1	248.2	▲2.3%	合計	775.5	716.9	▲7.6%	合計	1,385.5	1,386.9	0.1%	合計	260.2	207.8	▲20.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により、輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

24/25年度上半期の生乳生産量、前年同期をわずかに上回る

24年12月の生乳生産量、前年同月比1.0%減

デイリー・オーストラリア（DA）が2025年2月に公表した「Milk Production Reports」によると、24年12月の生乳生産量は前年同月比1.0%減の79万8685キロリットル（82万2646トン相当）となり、前月に引き続き前年同月を下回った（図1）。

この結果、24/25年度上半期（7～12月）

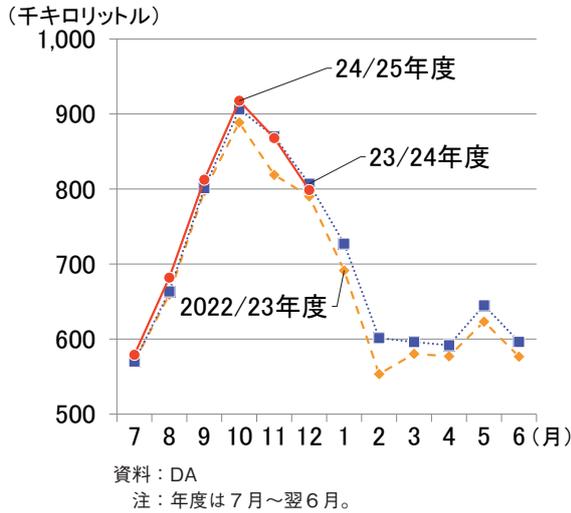
の累計生乳生産量は、前年同期比0.9%増の465万7766キロリットル（479万7499トン相当）となった。

一方、豪州のRURAL BANK（注）が公表した2月の酪農動向に関する報告によると、（1）24/25年度に入り豪州の主要な酪農地帯であるビクトリア州西部で干ばつが続き、24年9月以降は前年比1～2.5%程度の減産が続いていること（2）豪州気象庁（BOM）が今後も当面は乾燥状態が続くと予報して

いること一から生乳生産量は前年比で減少すると予測されている。

(注) 2000年に設立され、豪州の農村部を中心に400以上の拠点を持つ銀行。

図1 月別生乳生産量の推移



24年12月の主要乳製品の輸出量、全品目で増加

DAが2025年2月に公表した「Dairy Export Summary」によると、24年12月の主要乳製品4品目の輸出量は、全品目で前年同月を上回った(表、図2)。

脱脂粉乳は、中国向けが減少したものの、ベトナムやインドネシアなどの東南アジア向けおよびニュージーランド(NZ)向けが大きく増加したことを受け、前年度比で大幅に増加した。全粉乳は、中国およびタイをはじめとした東南アジア向けが増加したことを受け、大幅に増加した。バターおよびバターオイルは、マレーシアやタイなどの東南アジア

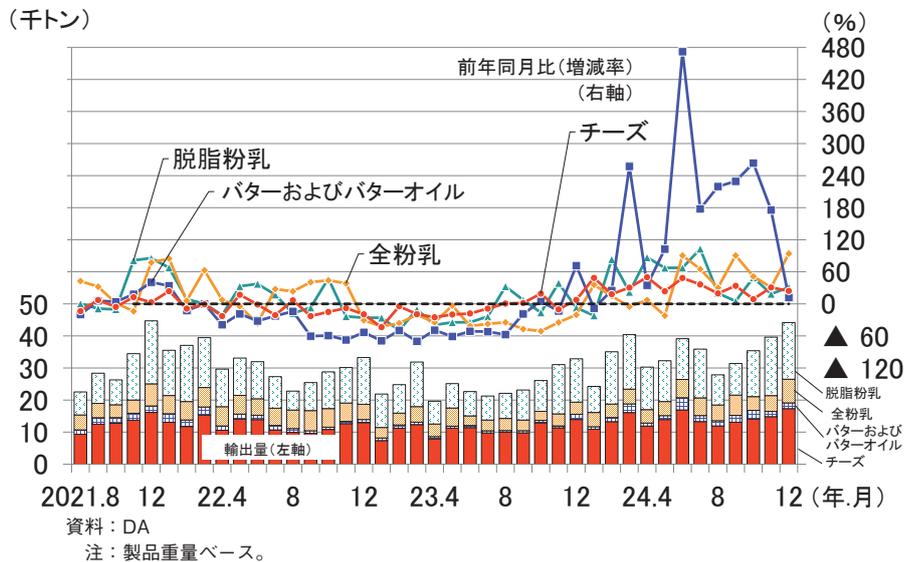
表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2023年 12月	24年 12月	前年同月比 (増減率)	24/25年度 (7～12月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	13,500	17,676	30.9%	84,647	34.0%
全粉乳	3,797	7,367	94.0%	33,349	60.1%
バターおよびバターオイル	1,629	1,822	11.9%	11,816	146.0%
チーズ	13,932	17,303	24.2%	84,475	24.8%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



向けのみならずメキシコやNZなどからの引き合いも強まったことを受け、かなり大きく増加した。チーズは、主要輸出先である日本や中国などアジア向けが堅調に推移したことを受け、大幅に増加した。

東南アジア向けの乳製品輸出量が拡大する中、2005年に発効したタイ・豪州自由貿易

協定（TAFTA）に基づき、25年1月1日からタイが輸入する豪州産の全粉乳、チーズ、バターなどの関税が撤廃された。今後の豪州産乳製品の輸出拡大への効果が注目される。

（調査情報部 平山 宗幸）

N Z

生乳生産量7カ月連続で前年同月を上回る

季節的な生乳生産のピークを過ぎても好調を維持

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年1月の生乳生産量は2385万トン（前年同月比2.6%増）とわずかに増加し、7カ月連続で前年同月を上回った（図1）。ニュージーランド証券取引所（NZX）は、季節的な生乳生産のピークを過ぎた後も、主産地を含むほとんどの地域で好調な状況が続いているとしている。

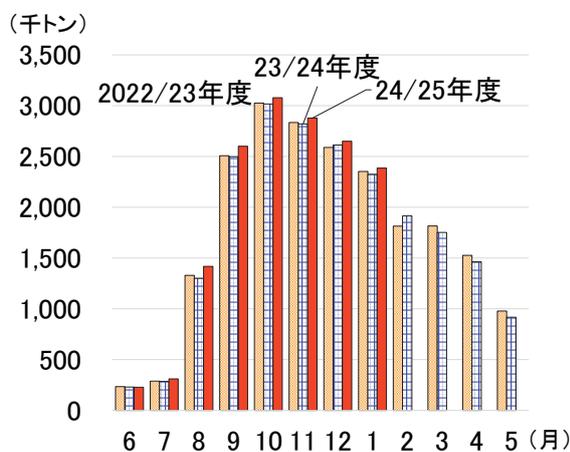
また、2月の生乳生産量については、良好な気象条件下で牧草地の生育が良好なこと

などにより、前年同月を上回ると予想している。

25年1月の乳製品輸出量、主要4品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年1月の乳製品輸出量は、主要4品目で前年同月を上回った（表、図2）。脱脂粉乳は中国向けが、全粉乳はバングラデシュ向けが、バターは中国および豪州向けが、チーズは中国および日本向けがいずれも伸びたことで輸出量が増加した。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2024年1月	25年1月	前年同月比(増減率)
脱脂粉乳	57,162	57,944	1.4%
全粉乳	142,263	153,875	8.2%
バターおよびバターオイル	43,055	48,355	12.3%
チーズ	29,577	39,409	33.2%

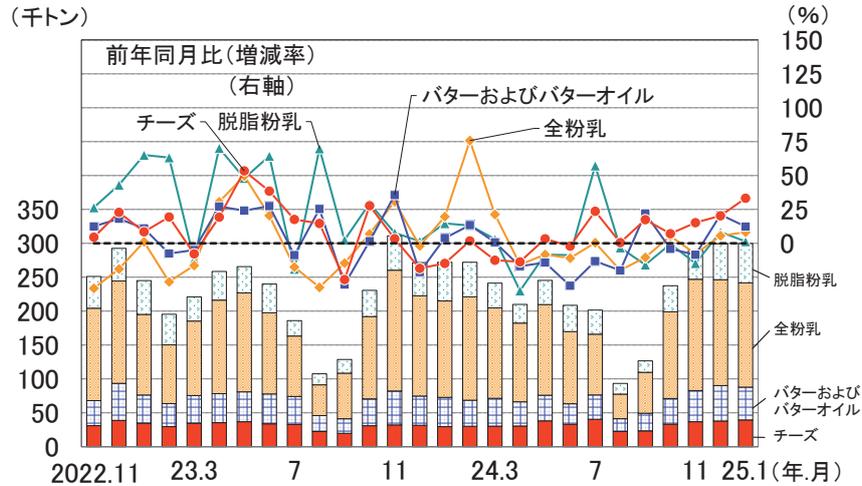
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

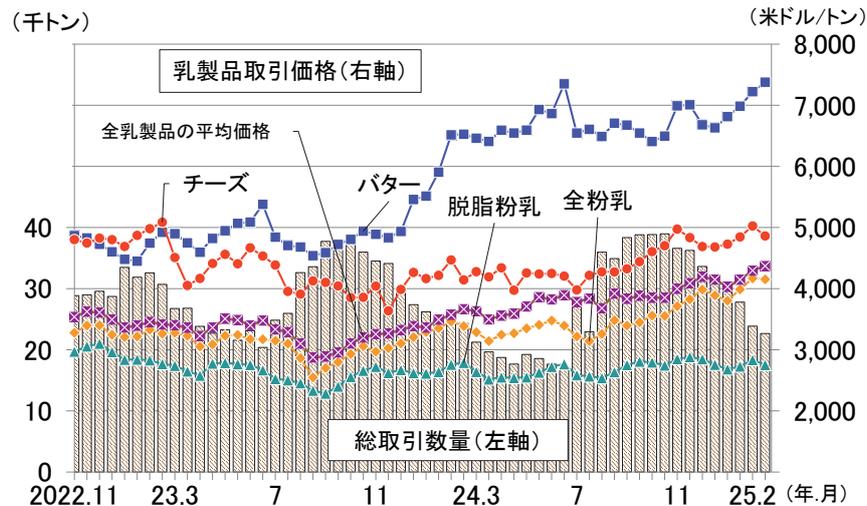
25年2月18日のGDT平均価格、主要3品目は前回を下回る

2025年2月18日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、バターを除く主要3品目はいずれも前回開催時(25年2月4日)を下回った(図3)。東南アジアや中東からの関心が弱まったものの、北アジアからの予想以上の購入に

加え、ヨーロッパおよびアフリカからの購入増から、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4370米ドル(65万8428円:1米ドル=150.67円^(注2)、前回比1.7%高)となった。

(注1) グローバルデイレイトレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

(調査情報部 田中 美宇)

飼料穀物

世界

生産減・消費増などから期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年2月11日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1247万トン（前年度比1.4%減）と前月から188万トン下方修正された。このうち、ブラジルは全生産量の8割を占める第2期作の播種遅れ、アルゼンチンは1月の継続した高温乾燥により、前月からそれぞれ100万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8116万トン（同8.2%減）と前月から199万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1000万トン（同57.3%減）と前月から300万トン下方修正されたことが影響した。中国では、トウモロコシ需給の緩和から価格

の下落を支えるための対策が講じられているとされる中で、輸入需要は減少しているとみられている。

消費量は、世界全体で12億3796万トン（同1.5%増）と前月から51万トン下方修正された。このうち、米国や中国はいずれも前月から据え置かれたが、アルゼンチンは前月から200万トン下方修正されたことが影響した。

輸出量は、世界全体で1億8923万トン（同2.1%減）と前月から218万トン下方修正された。このうち、生産量の減少を受けてブラジルが前月から100万トン下方修正され、ウクライナも同じく100万トン下方修正されたことが影響した。

この結果、期末在庫は、生産量の下方修正などから2億9031万トン（同8.1%減）と前月から303万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシ需給見通し（2025年2月11日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2022/23 年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(1月予測)	(2月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.98	34.55	44.79	44.79	29.6%
	生産量	346.74	389.67	377.63	377.63	▲3.1%
	輸入量	0.98	0.72	0.64	0.64	▲11.1%
	消費量	305.93	321.92	321.71	321.71	▲0.1%
	輸出量	42.22	58.23	62.23	62.23	6.9%
	期末在庫	34.55	44.79	39.12	39.12	▲12.7%
	ブラジル	期首在庫	3.97	10.04	8.84	8.84
生産量		137.00	122.00	127.00	126.00	3.3%
輸入量		1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
消費量		78.00	85.00	87.50	87.50	2.9%
輸出量		54.26	39.50	47.00	46.00	16.5%
期末在庫		10.04	8.84	2.84	2.84	▲67.9%
アルゼンチン		期首在庫	4.75	2.32	4.09	3.09
	生産量	37.00	50.00	51.00	50.00	0.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	14.20	14.25	16.30	14.30	0.4%
	輸出量	25.24	35.00	36.00	36.00	2.9%
	期末在庫	2.32	3.09	2.79	2.79	▲9.7%
	ウクライナ	期首在庫	7.80	3.00	1.57	1.07
生産量		27.00	32.50	26.50	26.50	▲18.5%
輸入量		0.02	0.01	0.02	0.02	2.0倍
消費量		4.70	4.95	4.45	4.95	0.0%
輸出量		27.12	29.49	23.00	22.00	▲25.4%
期末在庫		3.00	1.07	0.64	0.64	▲40.2%
EU		期首在庫	11.36	8.02	7.29	7.24
	生産量	52.38	61.87	58.00	58.00	▲6.3%
	輸入量	23.19	19.83	19.50	19.50	▲1.7%
	消費量	74.70	78.10	75.70	75.70	▲3.1%
	輸出量	4.20	4.39	2.50	2.50	▲43.1%
	期末在庫	8.02	7.24	6.59	6.54	▲9.7%
	中国	期首在庫	209.14	206.04	211.29	211.29
生産量		277.20	288.84	294.92	294.92	2.1%
輸入量		18.71	23.41	13.00	10.00	▲57.3%
消費量		299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
輸出量		0.01	0.00	0.02	0.02	—
期末在庫		206.04	211.29	206.18	203.18	▲3.8%
世界計		期首在庫	313.91	304.83	317.46	315.81
	生産量	1163.33	1230.07	1214.35	1212.47	▲1.4%
	輸入量	173.40	197.33	183.15	181.16	▲8.2%
	消費量	1172.41	1219.09	1238.47	1237.96	1.5%
	輸出量	180.35	193.25	191.41	189.23	▲2.1%
	期末在庫	304.83	315.81	293.34	290.31	▲8.1%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 岡田 真希奈）

アルゼンチンの生産減、ブラジルの消費増から 大豆期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年2月11日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2076万トン（前年度比6.5%増）と前月から350万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジル、これに

表 主要国の大豆需給見通し（2025年2月11日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(1月予測)	(2月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.47	7.19	9.32	9.32	29.6%
生産量	116.22	113.27	118.84	118.84	4.9%
輸入量	0.67	0.57	0.54	0.54	▲5.3%
消費量	60.20	62.24	65.59	65.59	5.4%
輸出量	53.87	46.13	49.67	49.67	7.7%
期末在庫	7.19	9.32	10.34	10.34	10.9%
ブラジル					
期首在庫	27.38	36.82	27.97	27.97	▲24.0%
生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
輸入量	0.15	0.87	0.15	0.15	▲82.8%
消費量	53.41	54.70	55.00	56.00	2.4%
輸出量	95.50	104.17	105.50	105.50	1.3%
期末在庫	36.82	27.97	32.52	31.52	12.7%
アルゼンチン					
期首在庫	23.69	17.00	24.05	24.05	41.5%
生産量	25.00	48.21	52.00	49.00	1.6%
輸入量	9.06	7.79	6.00	6.00	▲23.0%
消費量	30.32	36.58	41.00	41.00	12.1%
輸出量	4.19	5.11	4.50	4.50	▲11.9%
期末在庫	17.00	24.05	28.95	25.95	7.9%
中国					
期首在庫	25.15	32.34	43.31	43.31	33.9%
生産量	20.28	20.84	20.65	20.65	▲0.9%
輸入量	104.50	112.00	109.00	109.00	▲2.7%
消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	32.34	43.31	45.96	45.96	6.1%
世界計					
期首在庫	92.90	101.24	112.38	112.49	11.1%
生産量	378.16	394.97	424.26	420.76	6.5%
輸入量	168.60	178.11	179.24	179.24	0.6%
消費量	315.62	331.24	349.29	349.89	5.6%
輸出量	171.75	177.51	181.97	181.98	2.5%
期末在庫	101.24	112.49	128.37	124.34	10.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

次ぐ米国はいずれも前月から据え置かれたが、アルゼンチンは、25年1月の継続した高温乾燥により4900万トン（同1.6%増）と前月から300万トン下方修正されたことが影響した。また、隣国のパラグアイも同様に下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億7924万トン（同0.6%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（前年度比2.7%減）と同じく前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億4989万トン（同5.6%増）と前月から60万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれたが、ブラジルは旺盛なバイオ燃料需要などから5600万トン（同2.4%増）と前月から100万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で1億8198万トン（同

2.5%増）と前月から1万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億550万トン（同1.3%増）、これに次ぐ米国は4967万トン（同7.7%増）といずれも前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は（1）アルゼンチンの生産量が300万トン下方修正されたこと（2）ブラジルの消費量（搾油仕向け）が100万トン上方修正されたこと一などにより1億2434万トン（同10.5%増）と前月から403万トン下方修正された。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量9460万トンとは引き続き乖離^{かいり}がある。中国国内では大豆需給の緩和も報じられており、世界の期末在庫が比較的高い水準にある中で、同国の輸入動向が注目される。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国の生産量はやや減少、生産者価格は前年度に続き下落

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年2月11日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。この中で、生産者平均販売価格が上方修正されたことを除き、すべての数値は前月から据え置かれた。

生産量は、148億6700万ブッシェル（3億7764万トン^{（注1）}、前年度比3.1%減）。

国内消費量は、126億6500万ブッシェル（3億2170万トン、同0.1%減）。

輸出量は、24億5000万ブッシェル（6223万トン、同6.9%増）。

この結果、期末在庫は15億4000万ブッシェル（3912万トン、同12.6%減）と、前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、10.2%（同1.6ポイント減）と、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.35米ドル（655円、1キログラム当たり25.8円：1米ドル＝150.67円^{（注2）}、同4.4%安）と前月から上方修正されたが、前年度からやや下落が見込まれている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し (2025年2月11日米国農務省公表)

区分	-単位-	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
				(1月予測)	(2月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.6	90.6	36.67 (百万ヘクタール)	▲4.2%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.9	82.9	33.55 (百万ヘクタール)	▲4.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	179.3	179.3	11.25 (トン/ヘクタール)	1.1%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,763	1,763	44.78 (百万トン)	29.6%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,341	14,867	14,867	377.64 (百万トン)	▲3.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	28	25	25	0.64 (百万トン)	▲10.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,729	16,655	16,655	423.05 (百万トン)	▲0.4%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,673	12,665	12,665	321.70 (百万トン)	▲0.1%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,805	5,775	5,775	146.69 (百万トン)	▲0.5%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,868	6,890	6,890	175.01 (百万トン)	0.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,478	5,500	5,500	139.71 (百万トン)	0.4%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,292	2,450	2,450	62.23 (百万トン)	6.9%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,966	15,115	15,115	383.94 (百万トン)	1.0%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,540	1,540	39.12 (百万トン)	▲12.6%
期末在庫率	(%)	9.9	11.8	10.2	10.2		1.6ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.55	4.25	4.35	25.8 (円/kg)	▲4.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

(調査情報部 岡田 真希奈)

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

25年1月の国産トウモロコシ価格、前月からわずかに上昇

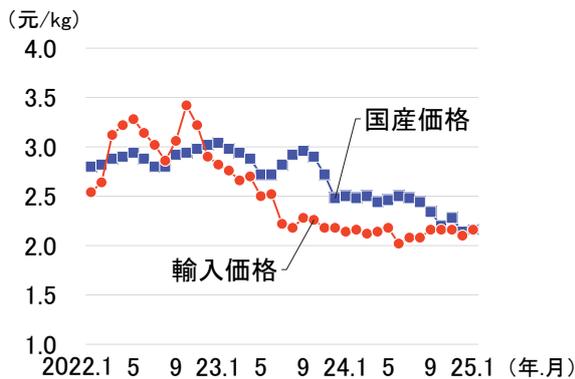
中国農業農村部は2月24日、「農産物需給動向分析月報(2025年1月)」を公表した。この中で、25年1月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した(図1)。直近のトウモロコシ需給を見ると、供給面では春節(旧正月)後の市場出回り量の減少から、全体的な供給量は縮小とされている。需要面

では春節後に飼料および加工企業の工場が徐々に再開し、在庫補充に向けた需要が高まっているとされる。また、大手穀物企業による市場での継続的な購入や輸入量の減少など、価格上昇につながる政策的な取り組みもあり、短期的には安定を保ちながらもやや上昇傾向での推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{かんどん}黄埔港到着(関税割当数量内:1%の関税+

25%の追加関税)は、25年1月が1キログラム当たり2.16元(45円:1元=20.80円^(注)、前月比2.9%高)とわずかに上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格(東北部産の同港到着価格)も同2.16元(45円、同0.9%高)とわずかに上昇したことで、輸入品と国産品の価格差はなくなった。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基に機構作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格(関税割当数量内：課税後)。

25年1月の国産大豆価格、前月同を維持

2025年1月の国産大豆価格は、前月同を維持した(図2)。直近の大豆需給を見ると、供給面では価格低迷から農家の売り控えにより市場出回り量は減少傾向とされる。需要面では取引業者の購入意欲は弱いながらも、国家備蓄在庫用の購入が現物市場価格を支え、価格の安定につながっているとされる。春節後は、末端需要の回復から加工企業の購入意欲が高まり、国家備蓄在庫用の購入も行われることで、当面の国産大豆価格は着実な上昇が見込まれている。

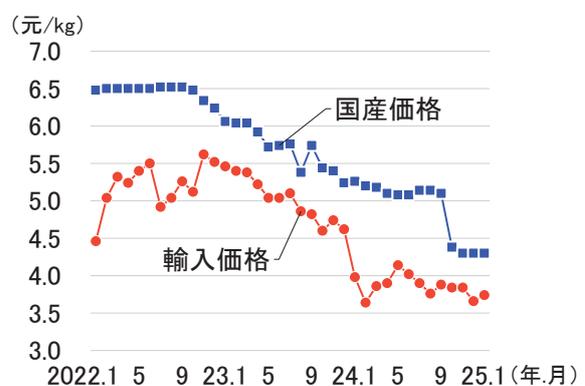
各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格

は、25年1月が1キログラム当たり3.78元(79円、前年同月比21.2%安)と前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.30元(89円、同18.2%安)と前年同月を大幅に下回った。同月の輸入大豆価格(山東省青島港引き渡し価格、課税後)が同3.74元(78円)となったことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.64元(13円)から同0.56元(12円)に縮小した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、国際相場安などを背景に前年に比べて高い水準にある。24年(1~12月)の輸入量は1億503万トン(前年比6.5%増)とかなりの程度増加した。輸入額は穀物価格の下落を受けて同10.8%減の528億4100万米ドル(7兆9616億円:1米ドル=150.67円^(注))と報告されている。主な輸入先はブラジル(総輸入量の71.1%)、米国(同21.1%)、アルゼンチン(同3.9%)となり、トランプ新政権発足前の駆け込み輸入から、米国の割合が上昇した。

(注)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・年中平均の為替相場」の2025年2月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基に機構作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格(課税後)。

2025年中央1号文件を発表、安定した穀物供給の保持が必要

中国共産党中央委員会と中国国務院は2025年2月23日、「2025年中央1号文件」（以下「中央1号文件」という）を発表した。この中央1号文件は、その年の最初に発出される最重要政策とされ、04年以降、「三農（農業、農村、農民）」の問題に対処したものとなっている。

今年の中央1号文件では、昨年につき穀物や重要な農畜産物に焦点を当て、生産の安定と供給の確保を明確に指示している。

このうち、翌2月24日に国務院が開催した記者会見の席で、中国共産党で経済政策を統括する中央財經委員会弁公室の韓文秀副主任は、中央1号文件に記載の穀物に関して次の見解を示した。

・24年の穀物生産は過去最高を記録し、大豆の生産量も2000万トンを超えるなど、さまざまな農産物の供給が潤沢となり、社会的安定につながる重要な役割を果たしている。

- ・ 中心的な政策は明確であり、穀物生産は依然として天候要因に左右され、近年は異常気象などの自然災害が発生する中で、（豊作により）穀物価格がしばらく低迷しているからといって、穀物の増産が終わったなどと軽々しく言うことはできない。
- ・ 直接的な食料としての穀物需要は減っているが、食肉や卵、乳製品の生産・供給をより増やすためには多くの穀物が必要となっている。
- ・ 全体として、中国の穀物供給は需要を上回っておらず、依然として需給バランスの安定が厳しい状況にある。このため、引き続き国家の食糧安全保障の確保を第一に考え、需給をしっかりと把握し、安定した供給を保持することが必要。
- ・ このためには、（1）単収と生産効率の改善（2）地域の状況に応じた科学技術や設備への支援強化（3）多様な食料供給システムの構築—が求められる。

（調査情報部 横田 徹）